

さくらUTOPIAクラウド IaaSサービス 仮想マシン操作画面（PRISM） 利用マニュアル

株式会社さくらケーシーエス
データセンター

2023年12月

【目次】

1. はじめに.....	3
2. ご利用環境について	3
3. ログインページ.....	4
3.1. アクセス方法	4
3.2. ログイン.....	4
3.3. ログアウト	5
4. 基本的な操作方法.....	6
4.1. 仮想マシン一覧 (VMs) にアクセスする	6
4.2. 仮想マシンを起動する.....	7
4.3. 仮想マシンを操作する.....	7
4.4. 仮想マシンを強制停止する.....	9
4.5. 現在の契約容量・使用量を確認する	10
4.6. テンプレート一覧にアクセスする	11
4.7. メディア一覧にアクセスする.....	12
5. 仮想マシンを作成する	13
5.1. テンプレートとは.....	13
5.2. 仮想マシンを作成する (WINDOWS OS の場合)	13
5.3. 仮想マシンを作成する (その他 OS の場合)	22
6. 仮想マシンの設定を変更する	33
6.1. 仮想マシン名を変更する.....	35
6.2. CPU の数を変更する	36
6.3. メモリサイズを変更する	37
6.4. ハードディスクの設定を変更する	38
6.4.1. ハードディスクサイズを変更する.....	39
6.4.2. ハードディスクを追加する	41
6.4.3. ハードディスクを削除する	42
6.5. ネットワークの設定を変更する.....	43
6.5.1. ネットワークを変更する.....	44
6.5.2. ネットワークを追加する.....	45
6.5.3. ネットワークを削除する.....	46
6.6. BOOT の構成を変更する	47
6.7. タイムゾーンを変更する	48
7. 仮想マシンを削除する	50
7.1. 作成した仮想マシンを削除する	50

8. カタログを使用する	51
8.1.メディアを仮想マシンに挿入する	51
9. [重要]WINDOWS OS のライセンス認証を行う.....	53
9.1. 仮想マシンから WINDOWS ライセンスサーバにアクセスできる場合	53
9.2. 仮想マシンから WINDOWS ライセンスサーバにアクセスできない場合	53
9.3. ライセンス認証を行う	54
付録 1. ライセンスについて	57
付録 1.1 MICROSOFT 社製品 (OS・ソフト) をご利用の場合.....	57
付録 1.2 REDHAT 社製品 (OS) をご利用の場合	57
付録 1.3 上記以外の製品 (OS・ソフト) をご利用の場合	57

1. はじめに

本書では弊社さくら UTOPIA クラウド IaaS サービスをご契約されているお客様が、仮想マシン操作画面（以下、PRISM）をご利用頂くための、基本的な操作・設定方法について説明しております。

2. ご利用環境について

お客様が PRISM をご利用頂くために必要な環境は以下の通りです。

■ ブラウザ

次のブラウザの最新および以前のメジャーリリースと互換性があります。

- Google Chrome
- Mozilla Firefox
- Microsoft Edge（Chromium 版）

本書内の表記法について

本書では以下の表記法を使用しております。

- 下線 … 操作の際に実際に入力する項目を意味します。
- [] … 操作の際にクリックするリンク・ボタンを意味します。
- "" … 仮想マシン等のステータスを意味します。
- [] … 本書に記載されている別章を意味します。
また、画面名やダイアログ名、参照する場所などを示す場合も
鍵カッコ（「」）で囲んであらわします。
- 『』 … 別紙の資料名を意味します。

3. ログインページ

3.1. アクセス方法

Web ブラウザにて、『サービス開始／変更のお知らせ』の『さくら UTOPIA クラウド IaaS サービス 操作画面情報』に記載しております WEB 操作画面（PRISM）情報の URL にアクセスしてください。

3.2. ログイン

- ① URL にアクセスすると、以下のログインページが表示されます。
WEB 操作画面（PRISM）情報に記載のユーザー名とパスワードをそれぞれ、ユーザー名、パスワードに入力し、[]ボタンをクリックします。

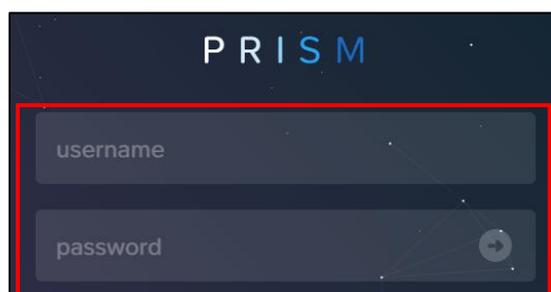


図 3.2.1 ログイン

- ② ログインに成功した場合は以下のような画面が表示されます。

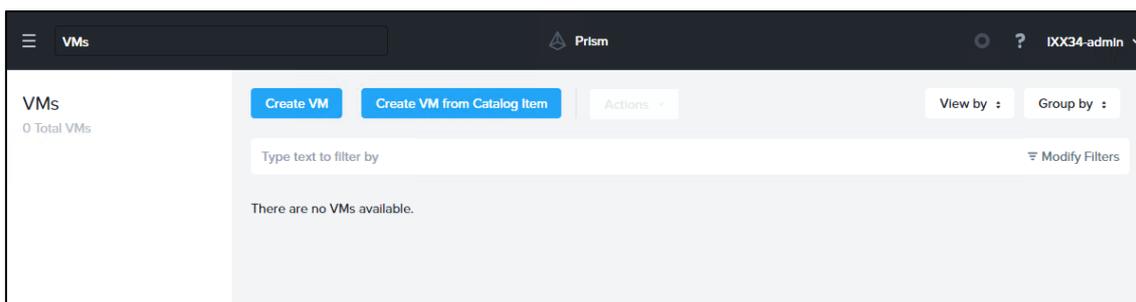


図 3.2.2 ログイン

- ③ [ログイン]ボタンをクリック後、以下のメッセージが表示された場合は、以下の原因が考えられます。
- ・ ユーザー名、又はパスワードの入力に誤りがあります。

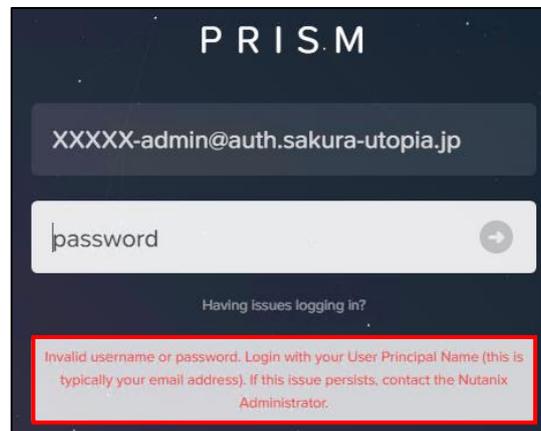


図 3.2.3 ログイン

この場合、以下の点について誤りが無いかご確認ください。

- ・ ご利用ユーザー名・パスワードが間違えていないか。
- ・ ユーザー名の「@」以降が正しく入力されているか。
- ・ キーボードの NumLock キー、CapsLock キーが ON になっていないか。

3.3. ログアウト

- ① 画面右上にある[ログイン名]部分をクリックし、[Sign Out]をクリックするとログアウトできます。

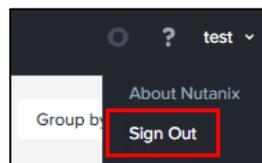


図 3.3.1 ログアウト

- ② ログアウトすると、ログイン画面が表示されます。

再ログインする場合は、ユーザー名、パスワードを入力し、[]ボタンをクリックします。

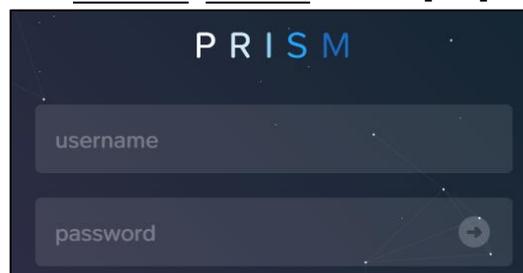


図 3.3.2 ログアウト

4. 基本的な操作方法

PRISM でよくアクセスする機能へのアクセスする手順は、以下のようになります。

4.1. 仮想マシン一覧 (VMs) にアクセスする

- ① 画面上部にある[☰]をクリックし、[Compute & Storage]にある[VMs]をクリックします。

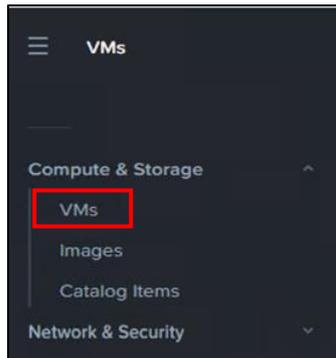


図 4.1.1 仮想マシン一覧 (VMs) にアクセスする

- ② 現在作成されている仮想マシン一覧が表示されます。

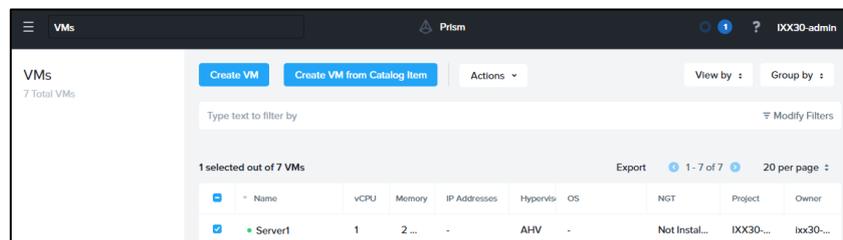


図 4.1.2 仮想マシン一覧 (VMs) にアクセスする

※ 仮想マシンの IP アドレスを変更するごとに「IP addresses」欄に IP アドレスが追加されますが、使用可能な IP アドレスは仮想マシン内で現在設定されている IP アドレスのみです。

4.2. 仮想マシンを起動する

- ① 「4.1. 仮想マシン一覧 (VMs) にアクセスする」より、起動したい仮想マシンを右クリックし、[Power ON]をクリックします。

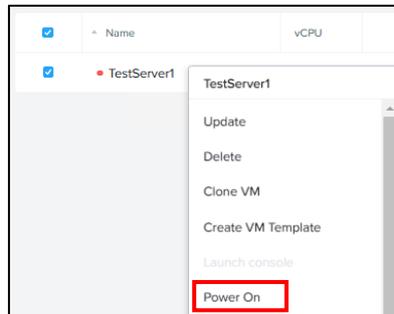
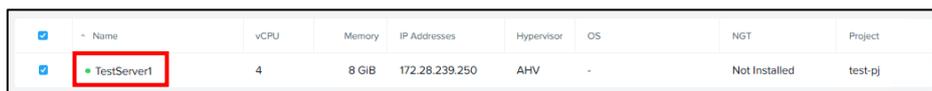


図 4.2.1 仮想マシンを起動する

- ② ステータスが「On」(名前の左が●)になっていることを確認します。

A screenshot of a virtual machine management interface showing a table of VMs. The 'TestServer1' row is highlighted with a red rectangle. The table has columns for Name, vCPU, Memory, IP Addresses, Hypervisor, OS, NGT, and Project.

Name	vCPU	Memory	IP Addresses	Hypervisor	OS	NGT	Project
TestServer1	4	8 GiB	172.28.239.250	AHV	-	Not Installed	test-pj

図 4.2.2 仮想マシンを起動する

4.3. 仮想マシンを操作する

- ① 「4.1. 仮想マシン一覧 (VMs) にアクセスする」より、コンソール画面を表示したい仮想マシンを右クリックし、[Launch console]をクリックします。

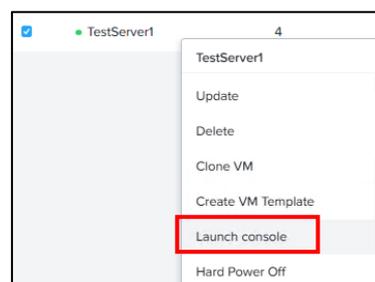


図 4.3.1 仮想マシンを操作する

- ② 以下のコンソール画面が表示されます。

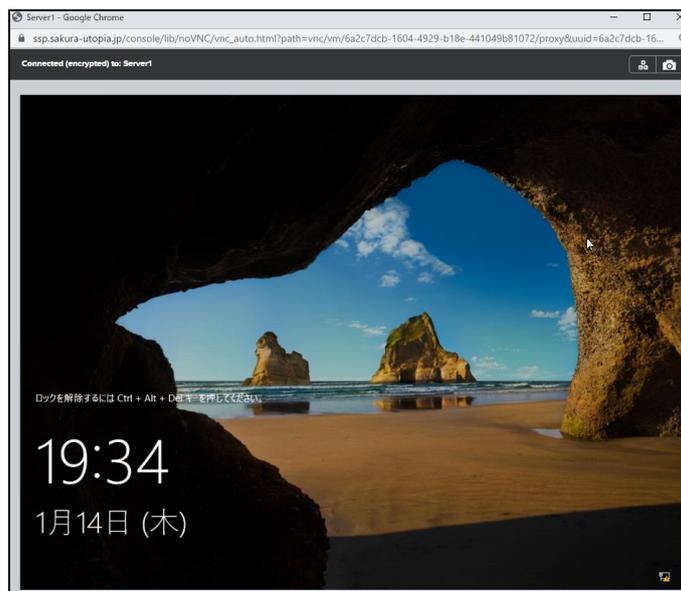


図 4.3.2 仮想マシンを操作する

● コンソール画面のボタンについて

ボタン	名前	説明
	Ctrl-Alt-Del の送信	仮想マシンでキーボードの Ctrl + Alt + Delete を押した状態にします。
	コンソール画面の取得	現在表示されているコンソール画面を画像ファイルとして取得できます。そのまま画像として保存することができます。

③ 仮想マシンを操作する場合、画面内をクリックします。



図 4.3.3 仮想マシンを操作する

4.4. 仮想マシンを強制停止する

- ① 通常はコンソール画面内からシャットダウンを行ってください。
 コンソール画面が操作できなくなった場合、「4.1. 仮想マシン一覧 (VMs) にアクセスする」より、
 停止したい仮想マシンを右クリックし、[Guest Shutdown]又は[Power Off]をクリックします。
 ※その他コマンドの動作は以下の表を参照ください。

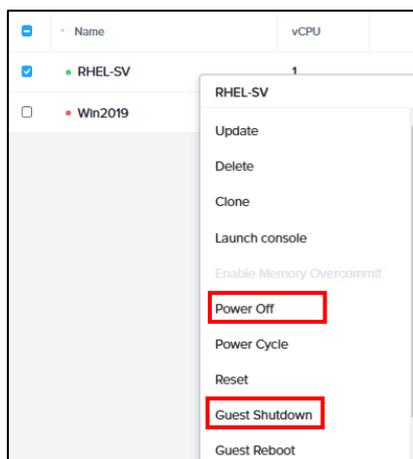


図 4.4.1 仮想マシンを強制停止する

コマンド	動作内容
Power Off	ハイパーバイザーが VM の強制電源オフを実行します。
Power Cycle	ハイパーバイザーが VM の強制再起動を実行します。
Reset	ハイパーバイザーが VM 上で BIOS を介して ACPI リセットアクションを実行します。
Guest Shutdown	VM 上のオペレーティングシステムを正常にシャットダウンします。 ※OS がフリーズしている場合等、正常に動作しない場合があります。
Guest Reboot	VM 上のオペレーティングシステムを正常に再起動します。 ※OS がフリーズしている場合等、正常に動作しない場合があります。

- ② ステータスが「Off」(名前の左が●)になっていることを確認します。

Name	vCPU	Memory	IP Addresses	Hypervisor	OS	NGT	Project
● TestServer1	4	8 GiB	-	AHV	-	Not Installed	test-pj

図 4.4.2 仮想マシンを強制停止する

4.5. 現在の契約容量・使用量を確認する

- ① 画面上部にある[☰]をクリックし、[Administration]にある[Projects]をクリックします。

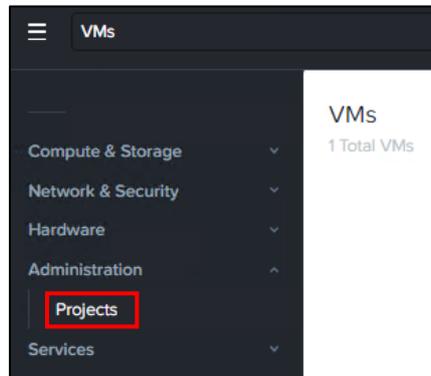
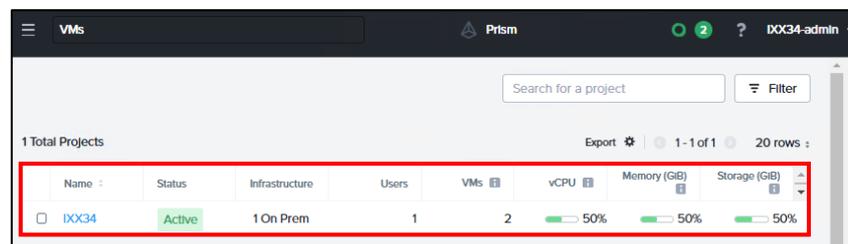


図 4.5.1 現在の契約容量・使用量を確認する

- ② ご契約頂きました CPU・メモリ・ストレージの使用率が表示されます。

※ 『さくら UTOPIA クラウド IaaS サービス プロジェクト別 リソース設定情報』に記載しておりますプロジェクト名ごとに契約容量、使用量が表示されます。



Name	Status	Infrastructure	Users	VMs	vCPU	Memory (GiB)	Storage (GiB)
IXX34	Active	1 On Prem	1	2	50%	50%	50%

図 4.5.2 現在の契約容量・使用量を確認する

使用率のバロメータ部分にマウスを合わせると契約容量、使用量が表示されます。

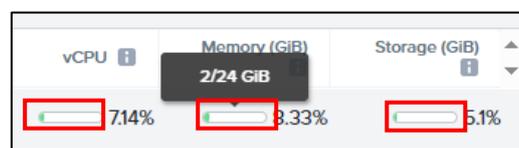


図 4.5.3 現在の契約容量・使用量を確認する-3

4.6. テンプレート一覧にアクセスする

- ① 画面上部にある[☰]をクリックし、[Compute & Storage]にある[Catalog Items]をクリックします。

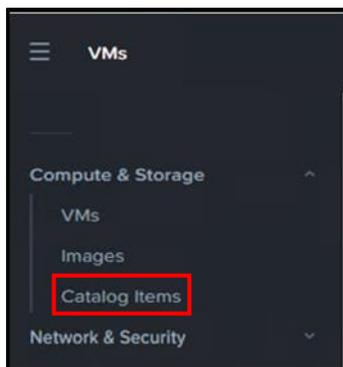


図 4.6.1 テンプレート一覧にアクセスする

- ② 現在ご利用可能なテンプレートが表示されます。テンプレートの詳細な情報につきましては『さくら UTOPIA クラウド IaaS サービス テンプレート・メディア情報』を参照ください。

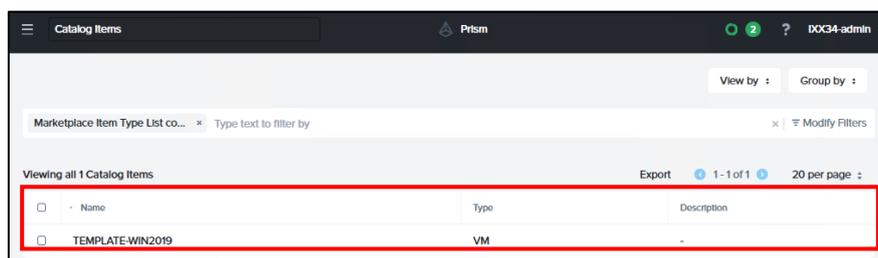


図 4.6.2 テンプレート一覧にアクセスする

4.7. メディア一覧にアクセスする

- ① 画面上部にある[☰]をクリックし、[Compute & Storage]にある[Images]をクリックします。

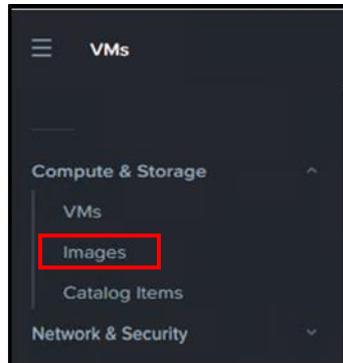
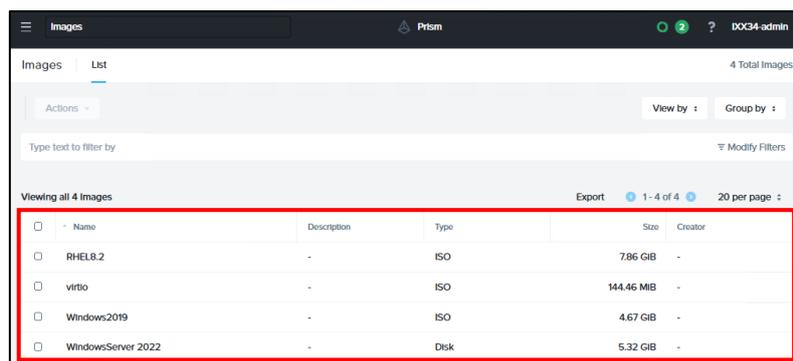


図 4.7.1 メディア一覧にアクセスする

- ② 現在ご利用可能なメディアが表示されます。メディアの詳細な情報につきましては『さくら UTOPIA クラウド IaaS サービス テンプレート・メディア情報』を参照ください。

A screenshot of a web application interface showing a list of images. The page title is 'Images' and the sub-page is 'List'. There are 4 total images. The table below shows the details of these images. The table has columns for Name, Description, Type, Size, and Creator. The items listed are RHEL8.2, virtio, Windows2019, and WindowsServer 2022. The table is highlighted with a red border.

<input type="checkbox"/>	Name	Description	Type	Size	Creator
<input type="checkbox"/>	RHEL8.2	-	ISO	786 GiB	-
<input type="checkbox"/>	virtio	-	ISO	144.46 MB	-
<input type="checkbox"/>	Windows2019	-	ISO	4.67 GiB	-
<input type="checkbox"/>	WindowsServer 2022	-	Disk	5.32 GiB	-

図 4.7.2 メディア一覧にアクセスする

5. 仮想マシンを作成する

仮想マシンを作成する手順について説明します。

5.1. テンプレートとは

テンプレートとは、弊社が事前に用意しました仮想マシンの雛形のことです。これを使用することにより、仮想マシンを作成した後に OS をインストールせずにすぐ利用できるようになります。

5.2. 仮想マシンを作成する（Windows OS の場合）

<重要>

Windows OS の仮想マシンを作成した直後は Microsoft ライセンス認証が完了しておらず、そのまま利用するとライセンス違反となります。

仮想マシンの作成が終わりましたら「9. [重要]Windows OS のライセンス認証を行う」を必ず実行ください。

- ① 「4.1. 仮想マシン一覧 (VMs) にアクセスする」で VMs にアクセスし、画面上部にある[Create VM from Catalog Item]をクリックします。

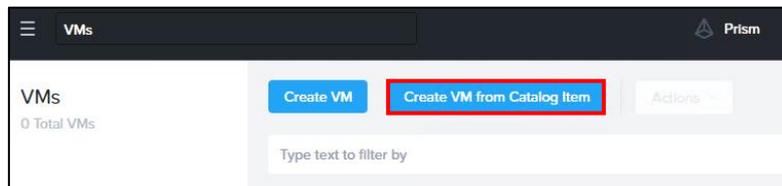


図 5.2.1 仮想マシンを作成する（Windows OS の場合）

- ② Catalog Type で[VM Template]を選択し、Catalog Item で使用するテンプレートを選択し、[Begin]をクリックします。

※Catalog Item では同名のカタログが表示されます。

ストレージタイプが HDD の場合、上側に表示されているカタログを選択し、CPU の下側に“HDD”と記載されているものをご利用ください。ストレージタイプが SSD の場合、下側に表示されているカタログを選択し、CPU の下側に“SSD”と記載されているものをご利用ください。

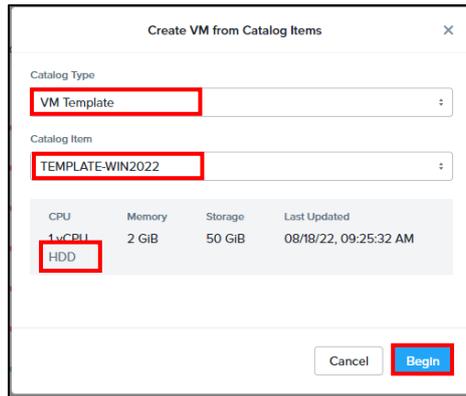


図 5.2.2 仮想マシンを作成する (Windows OS の場合)

- ③ Configuration では、Name、Project、Number of VMsを入力します。

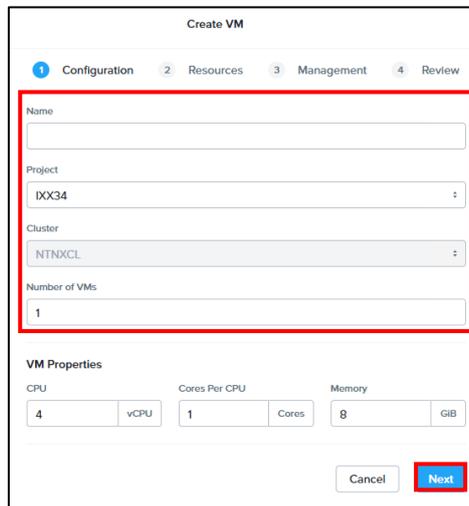


図 5.2.3 仮想マシンを作成する (Windows OS の場合)

項目名	入力内容
Name	本画面で表示される名前を入力します。 例) IXX30-Server1 ※OS 内に設定されるコンピュータ名とは異なります。 ※名前の先頭に『さくら UTOPIA クラウド IaaS サービス 操作画面情報』に記載されている“お客様業務コード”を追加ください。
Project	『さくら UTOPIA クラウド IaaS サービス プロジェクト別 リソース設定情報』に記載されている、使用するプロジェクト名を選択します。 ※仮想マシン作成後の変更不可。
Cluster	変更できません。
Number of VMs	入力した数だけ、同じスペックの仮想マシンを作成します。

VM Properties では、仮想マシンで使用する CPU 数・メモリ数を指定し、[Next]をクリックします。

The screenshot shows the 'Create VM' interface with the following fields:

- Name:** (empty text input)
- Project:** IXX34
- Cluster:** NTNXCCL
- Number of VMs:** 1
- VM Properties (highlighted):**
 - CPU:** 4 vCPU
 - Cores Per CPU:** 1 Cores
 - Memory:** 8 GiB
- Buttons:** Cancel, Next (highlighted)

図 5.2.4 仮想マシンを作成する (Windows OS の場合)

項目名	入力内容
CPU	仮想マシンで使用する CPU 数 (コア数) を入力します。
Cores Per CPU	1 つのソケット上に設置する CPU 数 (コア数) を入力します。
MEMORY	仮想マシンのメモリサイズを入力します。

- [CPU]とは、仮想マシンで使用する CPU 数 (コア数) のことです。
- [Cores Per CPU]とは、1 つのソケット上に設置する CPU 数 (コア数) のことです。
- ソケットとは、仮想マシン内で表示される CPU の個数のことです。なお、表示されている値は変更前の状態で、この画面で仮想 CPU の数・ソケットあたりのコア数を変更しても値は変わりません。
- 仮想マシンの合計 CPU 数が契約されたリソース以上の場合、仮想マシンが起動できない場合があります。
- メモリサイズは GB でサイズを指定できます。
- 指定されたメモリサイズが契約されたリソースを超過する場合、設定することができません。
- CPU、MEMORY はストレージごとに『さくら UTOPIA クラウド IaaS サービス プロジェクト別 リソース設定情報』で割り当てられている数まで利用できます。

- ④ Resources では、Networks、Boot Configuration を入力します。

※仮想マシン作成時は、Disks のサイズは変更できません。

仮想マシン作成完了後に、後述の「6. 仮想マシンの設定を変更する」で変更します。

#	Type	Image	Size	Bus Type
1	CD-ROM	-	-	IDE
2	Disk	-	100 GiB	SCSI

図 5.2.5 仮想マシンを作成する (Windows OS の場合)

Networks では、使用するネットワークを選択します。[Attach To Subnet]をクリックします。

図 5.2.6 仮想マシンを作成する (Windows OS の場合)

“Subnet”と“Network Connection State”を設定し、[Save]をクリックします。

VLAN ID	IPAM	Virtual Switch
417	Not Managed	br0

図 5.2.7 仮想マシンを作成する (Windows OS の場合)

項目名	入力内容
Subnet	『さくら UTOPIA クラウド IaaS サービス プロジェクト別 リソース設定情報』に記載されている“利用可能ネットワーク”を選択します。 ネットワーク情報の詳細につきましては『さくら UTOPIA クラウド IaaS サービス ネットワーク情報』をご確認ください。
Network Connection State	“Connected”を選択します。

Boot Configuration では、仮想マシンの起動順序を選択できます。Legacy BIOS Mode の“Default Boot Order (CD-ROM、Disk、Network)”を選択し、[Next]をクリックします。

※仮想マシン作成後の BIOS Mode(Legacy/UEFI)の変更はできません。

※BIOS Mode(Legacy)の Set Boot Priority については仮想マシン作成後に変更することができます。

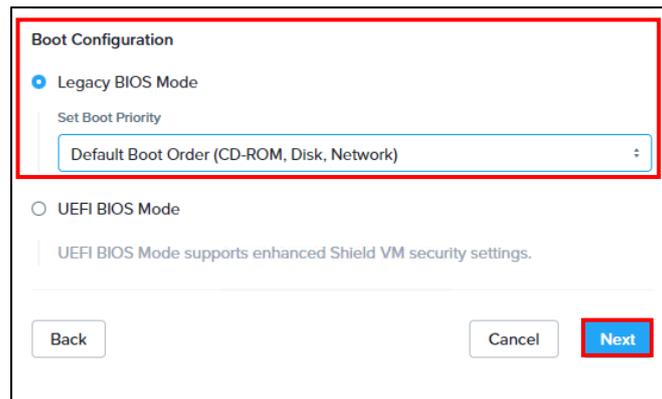
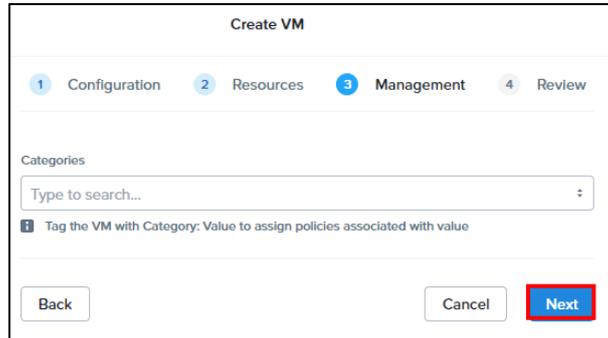


図 5.2.8 仮想マシンを作成する (Windows OS の場合)

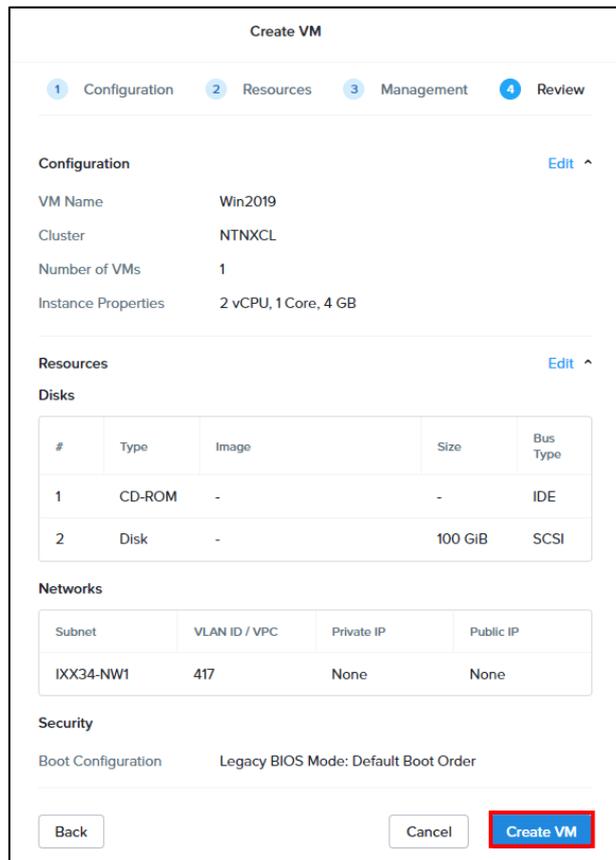
- ⑤ Management の、Categories は入力不要です。



The screenshot shows the 'Create VM' wizard in the 'Management' step. The progress bar at the top indicates the current step is 'Management' (3), with 'Configuration' (1), 'Resources' (2), and 'Review' (4) also visible. Below the progress bar, there is a 'Categories' section with a search input field containing the placeholder text 'Type to search...'. A small information icon and text below the input field state: 'Tag the VM with Category: Value to assign policies associated with value'. At the bottom of the form, there are three buttons: 'Back', 'Cancel', and 'Next'. The 'Next' button is highlighted with a red rectangular border.

図 5.2.9 仮想マシンを作成する (Windows OS の場合)

- ⑥ Review が表示されます。[Create VM]をクリックすると仮想マシンが作成されます。



The screenshot shows the 'Create VM' wizard in the 'Review' step. The progress bar at the top indicates the current step is 'Review' (4), with 'Configuration' (1), 'Resources' (2), and 'Management' (3) also visible. The main content area is divided into several sections: 'Configuration' (with an 'Edit' link), 'Resources' (with an 'Edit' link), 'Disks', 'Networks', and 'Security'. The 'Configuration' section shows: VM Name: Win2019, Cluster: NTNCL, Number of VMs: 1, Instance Properties: 2 vCPU, 1 Core, 4 GB. The 'Disks' section contains a table with 2 rows: Row 1: # 1, Type CD-ROM, Image -, Size -, Bus Type IDE; Row 2: # 2, Type Disk, Image -, Size 100 GiB, Bus Type SCSI. The 'Networks' section contains a table with 1 row: Subnet IXX34-NW1, VLAN ID / VPC 417, Private IP None, Public IP None. The 'Security' section shows: Boot Configuration Legacy BIOS Mode: Default Boot Order. At the bottom of the form, there are three buttons: 'Back', 'Cancel', and 'Create VM'. The 'Create VM' button is highlighted with a red rectangular border.

図 5.2.10 仮想マシンを作成する (Windows OS の場合)

- ⑦ VMs で作成した仮想マシンが表示されていることを確認します。

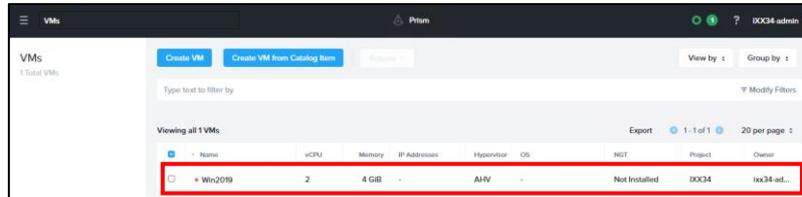


図 5.2.11 仮想マシンを作成する (Windows OS の場合)

- ⑧ 仮想マシンを右クリックし、[Power ON]をクリックします。

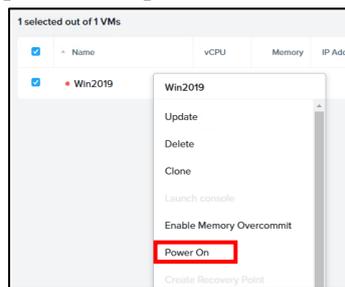


図 5.2.12 仮想マシンを作成する (Windows OS の場合)

- ⑨ ステータスが「On」(名前の左が●)になっていることを確認します。



図 5.2.13 仮想マシンを作成する (Windows OS の場合)

- ⑩ WindowsOS の仮想マシンを作成した場合、初回ログイン時に初期パスワードを指定する必要があります。

作成した仮想マシンを右クリックし、[Launch console]をクリックします。

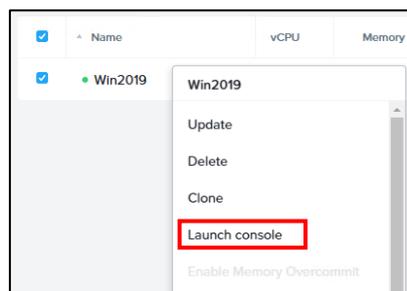


図 5.2.14 仮想マシンを作成する (Windows OS の場合)

- ⑪ Administrator アカウントの初期パスワードを任意に設定し、[完了]をクリックします。

設定のカスタマイズ

このコンピューターへのサインインに使用可能なビルトイン Administrator アカウントのパスワードを入力します。

ユーザー名(U) Administrator

パスワード(P)

パスワードの確認入力(R)

完了(F)

図 5.2.15 仮想マシンを作成する (Windows OS の場合)

- ⑫ []をクリックした後、⑭で設定したパスワードを入力し、ログインします。



図 5.2.16 仮想マシンを作成する (Windows OS の場合)

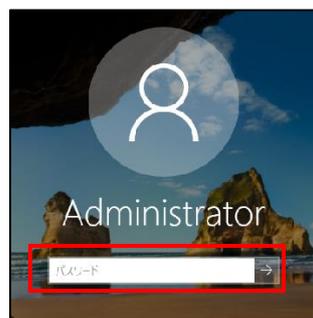


図 5.2.17 仮想マシンを作成する (Windows OS の場合)

- ⑬ 必要に応じて、仮想マシン内でコンピュータ名・IP アドレス等を設定します。設定方法につきましては各 OS のマニュアルをご確認ください。

※作成した仮想マシンで、下図のように Windows ライセンス認証がされていない場合には、[トラブルシューティング]をクリックします。

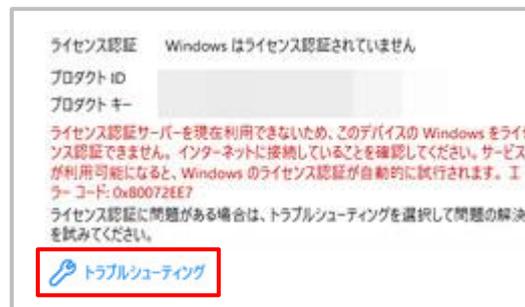


図 5.2.18 仮想マシンを作成する (Windows OS の場合)

5.3. 仮想マシンを作成する（その他 OS の場合）

<重要>

WindowsOS の仮想マシンを以下の手順で作成した場合、Microsoft ライセンス認証が実行できず、ライセンス違反となります。

- ① 「4.1. 仮想マシン一覧（VMs）にアクセスする」で VMs にアクセスし、画面上部にある[Create VM]をクリックします。

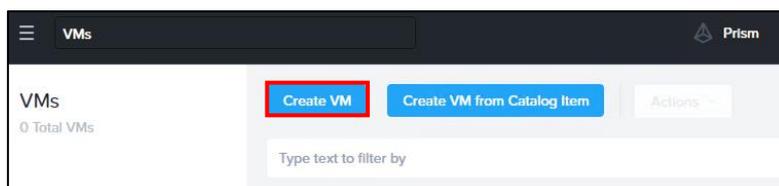


図 5.3.1 仮想マシンを作成する（その他 OS の場合）

- ② Configuration では、Name、Description、Project、Number of VMsを入力します。

The screenshot shows the 'Create VM' configuration form. It has four tabs: 'Configuration' (selected), 'Resources', 'Management', and 'Review'. The 'Configuration' tab contains several input fields: 'Name' (with 'RHEL-SV' entered), 'Description' (with '(Optional)' entered), 'Project' (with 'IXX34' entered), 'Cluster' (with 'NTNXCL' selected from a dropdown), and 'Number of VMs' (with '1' entered). These fields are enclosed in a red box. Below these fields is the 'VM Properties' section, which includes 'CPU' (1 vCPU), 'Cores Per CPU' (1 Cores), and 'Memory' (4 GiB). There is also a checkbox for 'Enable Memory Overcommit' which is unchecked. At the bottom right, there are 'Cancel' and 'Next' buttons.

図 5.3.2 仮想マシンを作成する（その他 OS の場合）

項目名	入力内容
Name	本画面で表示される名前を入力します。 例) IXX30-Server1 ※OS 内に設定されるコンピュータ名とは異なります。 ※名前の先頭に『さくら UTOPIA クラウド IaaS サービス 操作画面情報』に記載されている“お客様業務コード”を追加ください。
Description	説明欄になります。任意でご記入ください。

Project	『さくら UTOPIA クラウド IaaS サービス プロジェクト別 リソース設定情報』に記載されている、使用するプロジェクト名を選択します。 ※仮想マシン作成後の変更不可。
Cluster	変更できません。
Number of VMs	入力した数だけ、同じスペックの仮想マシンを作成します。

VM Properties では、仮想マシンで使用する CPU 数・メモリ数を指定し、[Next]をクリックします。

図 5.3.3 仮想マシンを作成する（その他 OS の場合）

項目名	入力内容
CPU	仮想マシンで使用する CPU 数（コア数）を入力します。
Cores Per CPU	1 つのソケット上に設置する CPU 数（コア数）を入力します。
MEMORY	仮想マシンのメモリサイズを入力します。

- [CPU]とは、仮想マシンで使用する CPU 数（コア数）のことです。
- [Cores Per CPU]とは、1 つのソケット上に設置する CPU 数（コア数）のことです。
- ソケットとは、仮想マシン内で表示される CPU の個数のこと。なお、表示されている値は変更前の状態で、この画面で仮想 CPU の数・ソケットあたりのコア数を変更しても値は変わりません。
- 仮想マシンの合計 CPU 数が契約されたリソース以上の場合、仮想マシンが起動できない場合があります。
- メモリサイズは GB でサイズを指定できます。
- 指定されたメモリサイズが契約されたリソースを超過する場合、設定することができません。
- CPU、MEMORY はストレージごとに『さくら UTOPIA クラウド IaaS サービス プロジェクト別 リソース設定情報』で割り当てられている数まで利用できます。

③ Resources では、Disks、Networks、Boot Configurationを入力します。

Disks では、使用するイメージとハードディスクを設定します。

はじめに CD-ROM と使用するイメージを追加します。[Attach Disk]をクリックします。

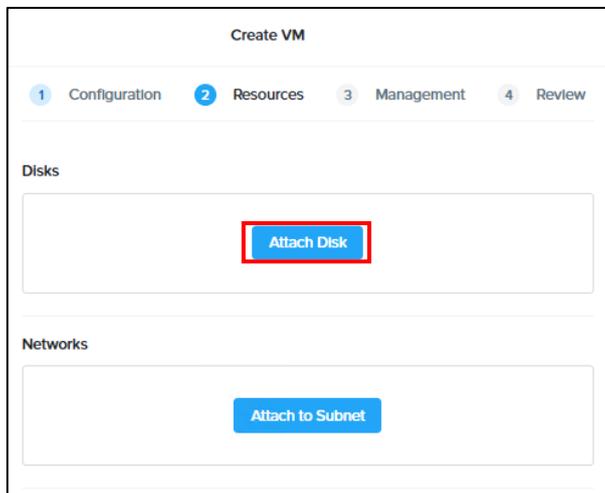


図 5.3.4 仮想マシンを作成する（その他 OS の場合）

フィールドに以下の項目を設定し、[Save]をクリックします。

項目名	入力内容
Type	“CD-ROM”を選択します。
Operation	“Clone from Image”を選択します。
Image	使用するメディアを選択します。
Bus Type	“SATA”、“IDE”の内、OS に対応した Bus Type を選択します。

※メディアの詳細な情報につきましては『さくら UTOPIA クラウド IaaS サービス テンプレート・メディア情報』を参照ください。

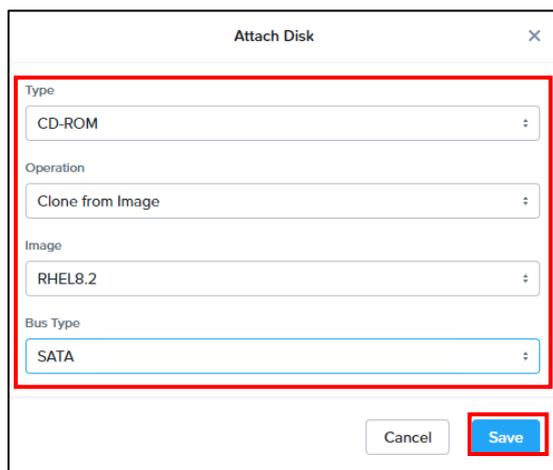


図 5.3.5 仮想マシンを作成する（その他 OS の場合）

引き続き、ハードディスクを追加します。[Attach Disk]をクリックします。



図 5.3.6 仮想マシンを作成する（その他 OS の場合）

フィールドに以下の項目を設定し、[Save]をクリックします。

項目名	入力内容
Type	“Disk”を選択します。
Operation	“Allocate on Storage Container”を選択します。
Storage Container	変更できません。
Image	<u>ハードディスクサイズ</u> を入力します。
Bus Type	“SCSI”を選択します。

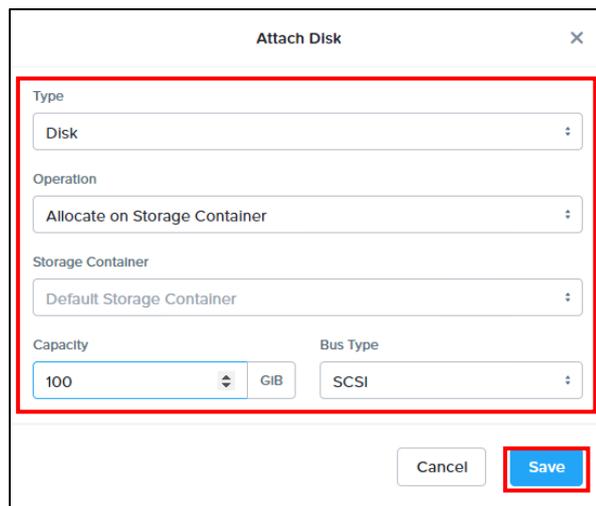


図 5.3.7 仮想マシンを作成する（その他 OS の場合）

※ハードディスクサイズの設定は、以下の点にご注意ください。

- **ハードディスクサイズを増やすことはできますが、減らすことはできません。**
- ハードディスクサイズは GB でサイズを指定できます。
- ハードディスクサイズで小数点は使用できません。
- 指定されたハードディスクサイズは契約されたリソース（ストレージ）から使用されます。
- 指定されたハードディスクサイズが契約されたリソース（ストレージ）を超過する場合、設定することができません。

Disks Attach Disk

#	Type	Image	Size	Bus Type	Actions
1	CD-ROM	RHEL8.2	7.86 GiB	SATA	▲ ✎ 🗑
2	Disk	-	50 GiB	SCSI	✎ 🗑

図 5.3.8 仮想マシンを作成する（その他 OS の場合）

使用するイメージと、ハードディスクの設定内容が表示されます。

Networks では、使用するネットワークを選択します。[Attach To Subnet]をクリックします。

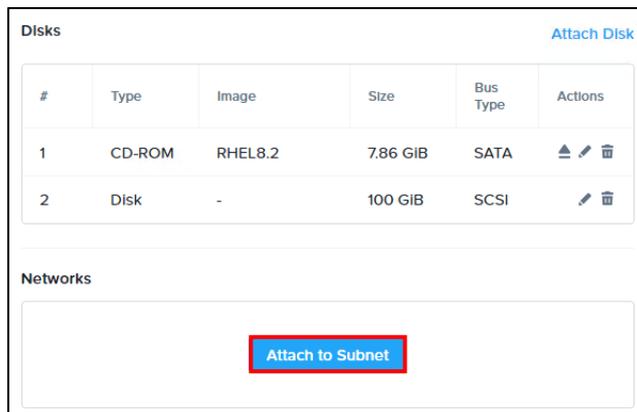


図 5.3.9 仮想マシンを作成する（その他 OS の場合）

“Subnet”と“ Network Connection State”を設定し、[Save]をクリックします。

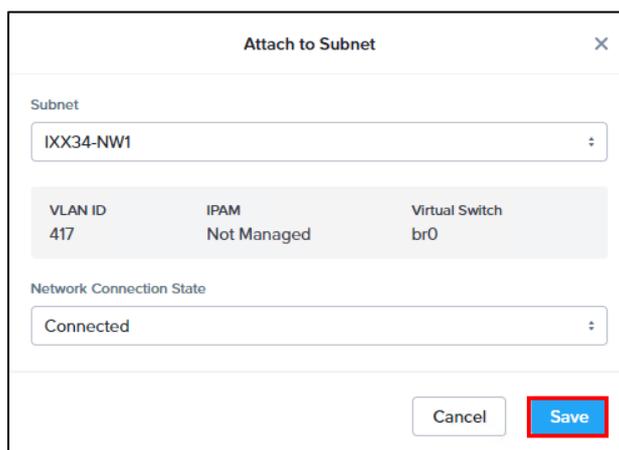


図 5.3.10 仮想マシンを作成する（その他 OS の場合）

項目名	入力内容
Subnet	『さくら UTOPIA クラウド IaaS サービス プロジェクト別 リソース 設定情報』に記載されている“利用可能ネットワーク”を選択します。 ネットワーク情報の詳細につきましては『さくら UTOPIA クラウド IaaS サービス ネットワーク情報』をご確認ください。
Network Connection State	“Connected”を選択します。

Boot Configuration では、Boot の構成を選択できます。Legacy BIOS Mode の”Default Boot Order (CD-ROM, Disk, Network) ”を選択し、[Next]をクリックします。

※仮想マシン作成後の BIOS Mode(Legacy/UEFI)の変更はできません。

※BIOS Mode(Legacy)の Set Boot Priority については仮想マシン作成後に変更することができます。

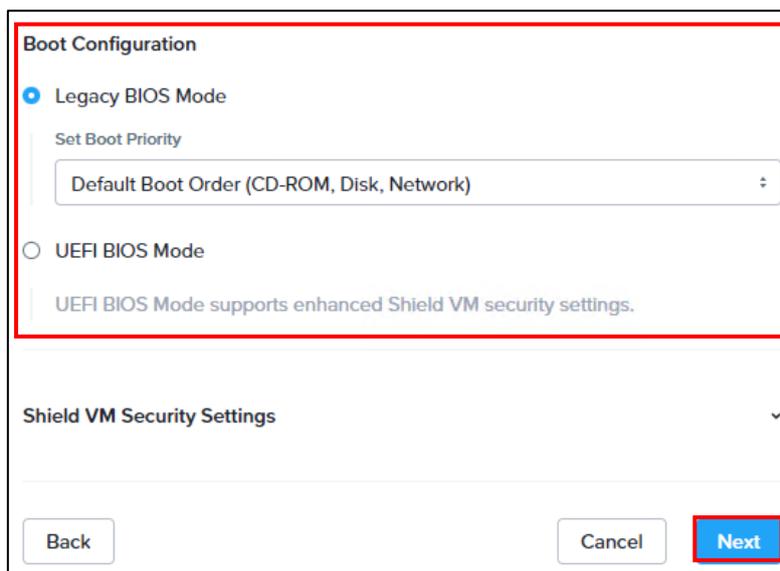


図 5.3.11 仮想マシンを作成する (その他 OS の場合)

- ④ Management では、Categories、Timezone、Guest Customizationを入力します。

The screenshot shows the 'Create VM' wizard in the 'Management' step. A red box highlights the 'Categories', 'Timezone', and 'Guest Customization' sections. The 'Categories' dropdown is empty. The 'Timezone' dropdown is set to '(UTC) UTC'. The 'Guest Customization' section has 'Script Type' set to 'No Customization' and 'Configuration Method' set to 'Custom Script'. The 'Next' button is highlighted in red.

図 5.3.12 仮想マシンを作成する（その他 OS の場合）

項目名	入力内容
Categories	入力不要です。
Timezone	ハードウェアクロックのタイムゾーンになります。 “(UTC+09:00)Asia/Tokyo”を選択します。 Linux 系の OS で再起動時に時間がずれる場合は、“(UTC) UTC”を選択します。
Guest Customization	変更不要です。

- ⑤ Review が表示されます。[Create VM]をクリックすると仮想マシンが作成されます。

Create VM

1 Configuration2 Resources3 Management4 Review

Configuration [Edit](#) ^

VM Name: RHEL-SV

Description: -

Cluster: NTNXCCL

Number of VMs: 1

Instance Properties: 1 vCPU, 1 Core, 4 GB

Memory Overcommit: Disabled

Resources [Edit](#) ^

Disks

#	Type	Image	Size	Bus Type
1	CD-ROM	RHEL8.2	7.86 GiB	SATA

Networks

Subnet	VLAN ID / VPC	Private IP	Public IP
IXX34-NW1	417	None	None

Security

Boot Configuration: Legacy BIOS Mode: Default Boot Order

図 5.3.13 仮想マシンを作成する (その他 OS の場合)

- ⑥ 仮想マシンを右クリックし、[Power ON]をクリックします。

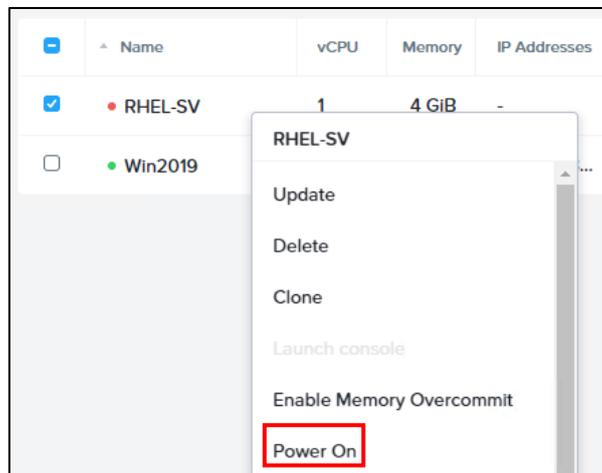


図 5.3.14 仮想マシンを作成する (その他 OS の場合)

- ⑦ ステータスが「On」(名前の左が●)になっていることを確認します。

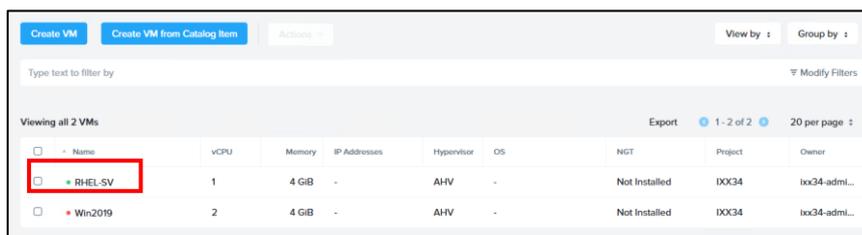


図 5.3.15 仮想マシンを作成する (その他 OS の場合)

- ⑧ 作成した仮想マシンを右クリックし、[Launch console]をクリックします。

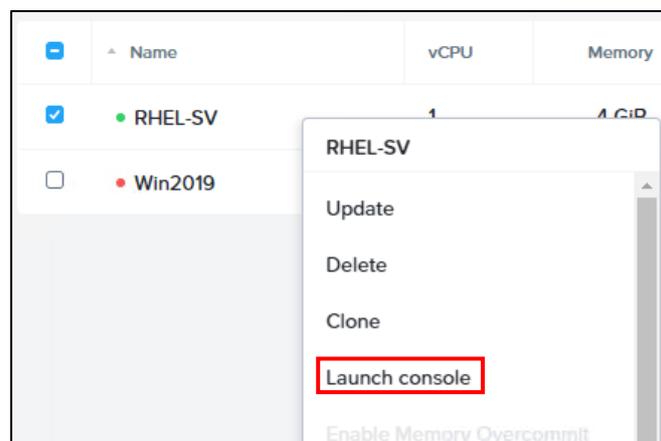


図 5.3.16 仮想マシンを作成する (その他 OS の場合)

- ⑨ メディアが挿入された状態で仮想マシンが起動されていますのでインストールを行います。
インストール方法につきましては各 OS のマニュアルをご確認ください。

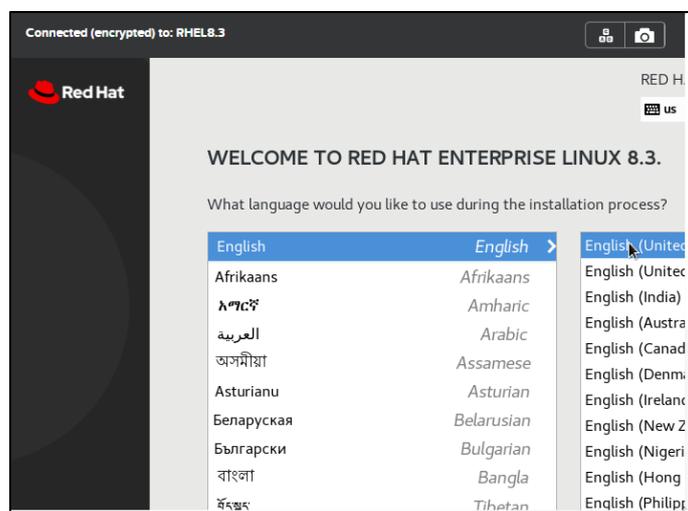


図 5.3.17 仮想マシンを作成する（その他 OS の場合）

6. 仮想マシンの設定を変更する

作成した仮想マシンのリソース（CPU の数やメモリサイズ等）を変更する手順について説明します。

<重要>

仮想マシンがパワーオンの状態でも、vCPU のソケット数とメモリ割り当てを追加することは可能です。しかし、vCPU ソケットあたりのコア数の追加については仮想マシンをシャットダウンしてから実施していただく必要があります。

また、仮想マシンがパワーオンの状態では、VM 上のメモリ割り当てと CPU の数を減らすことはできません。リソースを変更する際には仮想マシンをシャットダウンした後に実施頂くことを推奨します。

- ① 「4.1. 仮想マシン一覧 (VMs) にアクセスする」で VMs にアクセスし、設定を変更したい仮想マシンを右クリックし、[Update]をクリックすると、設定内容の編集画面になります。

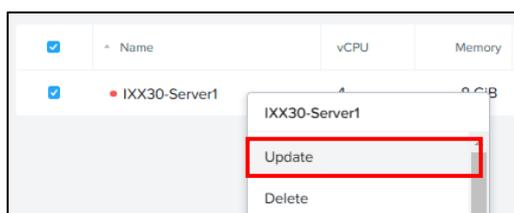


図 6.1 仮想マシンの設定を変更する

※Update 画面では、以下の設定を一括で変更する為、必要な箇所だけ変更してください。各画面で変更する項目が無い場合は[Next]をクリックしてください。

Review 画面で[Save]をクリックすると変更が完了します。

また、各画面で[Cancel]をクリックすると変更内容を全てキャンセルできます。

各画面で変更できる項目は以下の通りです。

(1) Configuration

変更可能な内容	詳細
Name (仮想マシン名)	6.1. 仮想マシン名を変更する
Description (説明欄)	6.1. 仮想マシン名を変更する
VM Properties (CPU、Cores Per CPU、Memory)	6.2. CPU の数を変更する 6.3. メモリサイズを変更する

(2) Resources

変更可能な内容	詳細
Disks (ハードディスクの変更、追加、削除)	6.4. ハードディスクの設定を変更する 6.4.1. ハードディスクサイズを変更する 6.4.2. ハードディスクを追加する 6.4.3. ハードディスクを削除する 8.1.メディアを仮想マシンに挿入する
Networks (ネットワークの変更、追加、削除)	6.5. ネットワークの設定を変更する 6.5.1. ネットワークを変更する 6.5.2. ネットワークを追加する 6.5.3. ネットワークを削除する
Boot Configuration (Bootの構成)	6.6. Bootの構成を変更する

(3) Management

変更可能な内容	詳細
Timezone (タイムゾーン)	6.7. タイムゾーンを変更する

(4) Review

設定内容を確認し、[Save]をクリックすると、設定変更が完了します。

6.1. 仮想マシン名を変更する

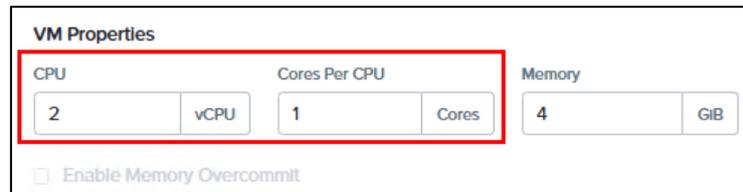
The screenshot shows the 'Update VM' interface with four steps: Configuration, Resources, Management, and Review. The 'Name' field is highlighted with a red box and contains the text 'Win2019'. The 'Description' field contains '(Optional)'. Below these are dropdown menus for 'Project' (IXX34) and 'Cluster' (NTNXCL).

図 6.1.1 仮想マシン名を変更する

項目名	入力内容
Name	本画面で表示される名前を入力します。 例) IXX30-Server1 ※OS 内に設定されるコンピュータ名とは異なります。 ※名前の先頭に『さくら UTOPIA クラウド IaaS サービス 操作画面情報』に記載されている“お客様業務コード”を追加ください。
Description	説明欄になります。任意でご記入ください。

6.2. CPU の数を変更する

仮想マシンの CPU 数を変更する場合、“VM Properties”の[CPU]、 [Cores Per CPU]を使用したい数に変更します。



The image shows a screenshot of the 'VM Properties' dialog box. It has three main sections: 'CPU', 'Cores Per CPU', and 'Memory'. The 'CPU' section has a text input field containing '2' and a 'vCPU' button. The 'Cores Per CPU' section has a text input field containing '1' and a 'Cores' button. The 'Memory' section has a text input field containing '4' and a 'GIB' button. A red rectangular box highlights the 'CPU' and 'Cores Per CPU' sections. Below these sections is a checkbox labeled 'Enable Memory Overcommit' which is currently unchecked.

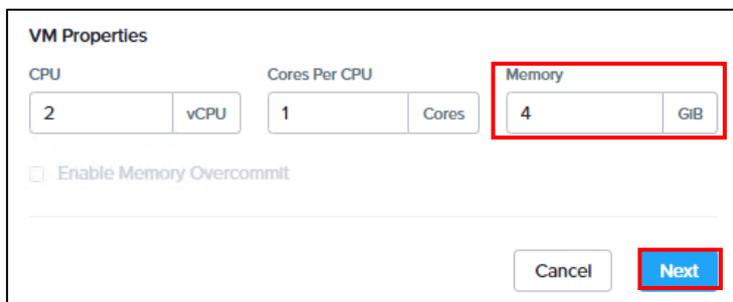
図 6.2.1 CPU の数を変更する

項目名	入力内容
CPU	仮想マシンで使用する CPU 数（コア数）を入力します。
Cores Per CPU	1 つのソケット上に設置する CPU 数（コア数）を入力します。

- [CPU]とは、仮想マシンで使用する CPU 数（コア数）のことです。
- [Cores Per CPU]とは、1 つのソケット上に設置する CPU 数（コア数）のことです。
- ソケットの数とは、仮想マシン内で表示される CPU の個数のことです。なお、表示されている値は変更前の状態で、この画面で仮想 CPU の数・ソケットあたりのコア数を変更しても値は変わりません。
- 仮想マシンの合計 CPU 数が契約されたリソース以上の場合、仮想マシンが起動できない場合があります。
- 仮想マシンがパワーオンの状態でも CPU を増やすことができます。ただし、仮想マシンの OS によっては使用できない場合があります。
また、CPU を減らす場合は仮想マシンをパワーオフする必要があります。

6.3. メモリサイズを変更する

仮想マシンのメモリサイズを変更する場合、“VM Properties”の[MEMORY]を使用したいサイズに変更します。



The image shows a 'VM Properties' dialog box. It has three main sections: 'CPU' with a value of '2' and 'vCPU' label; 'Cores Per CPU' with a value of '1' and 'Cores' label; and 'Memory' with a value of '4' and 'GB' label. The 'Memory' section is highlighted with a red border. Below these sections is a checkbox labeled 'Enable Memory Overcommit' which is unchecked. At the bottom right, there are two buttons: 'Cancel' and 'Next'.

図 6.3.1 メモリサイズを変更する

項目名	入力内容
MEMORY	仮想マシンのメモリサイズを入力します。

- メモリサイズは GB でサイズを指定できます。
- 指定されたメモリサイズが契約されたリソースを超過する場合、設定することができません。
- 仮想マシンがパワーオンの状態でもメモリを増やすことができます。ただし、仮想マシンの OS によっては使用できない場合があります。
また、メモリを減らす場合は仮想マシンをパワーオフする必要があります。

6.4. ハードディスクの設定を変更する

Update VM

1 Configuration
 2 Resources
 3 Management
 4 Review

Disks Attach Disk

#	Type	Image	Size	Bus Type	Actions
1	CD-ROM	-	-	IDE	
2	Disk	-	100 GiB	SCSI	

Flash Mode (for all Disks)

図 6.4.1 ハードディスクの設定を変更する

項目名	入力内容
Disks	<ul style="list-style-type: none"> ・ハードディスクサイズを変更する場合、[]をクリックします。 ・ハードディスクを追加する場合、[Attach Disk]をクリックします。 ・ハードディスクを削除する場合、[]をクリックします。 ・メディアを使用する場合、[]をクリックします。 <p>※メディアの詳細な情報につきましては『さくら UTOPIA クラウド IaaS サービス テンプレート・メディア情報』を参照ください。</p>

6.4.1. ハードディスクサイズを変更する

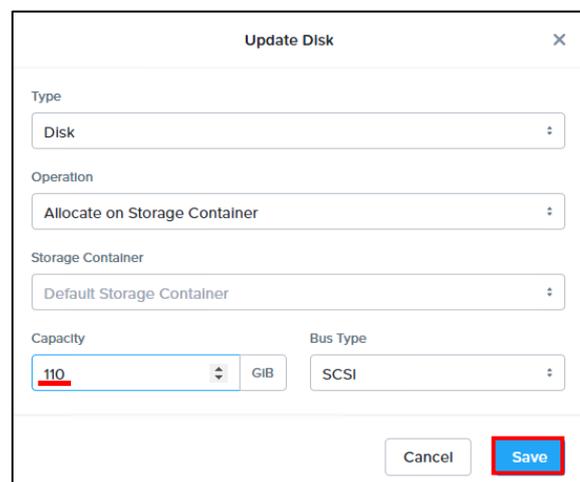
① 仮想マシンのハードディスクサイズを変更する場合、“Disks”で変更したいハードディスクの“”部分をクリックし、使用したいサイズに変更します。

- **ハードディスクサイズを増やすことはできますが、減らすことはできません。**
- **ハードディスクサイズを変更した後、必ず[Save]をクリックしてください。**
- ハードディスクサイズは GB でサイズを指定できます。
- ハードディスクサイズで小数点は使用できません。
- 指定されたハードディスクサイズは契約されたリソース（ストレージ）から使用されます。
- 指定されたハードディスクサイズが契約されたリソース（ストレージ）を超過する場合、設定することができません。
- 仮想マシンがパワー-onの状態でもハードディスクサイズを増やすことができます。ただし、仮想マシンの OS によっては使用できない場合があります。



#	Type	Image	Size	Bus Type	Actions
1	CD-ROM	-	-	IDE	 
2	Disk	-	100 GIB	SCSI	 

図 6.4.1.1 ハードディスクサイズを変更する



Update Disk

Type: Disk

Operation: Allocate on Storage Container

Storage Container: Default Storage Container

Capacity: 110 GIB

Bus Type: SCSI

Buttons: Cancel, Save

図 6.4.1.2 ハードディスクサイズを変更する

ハードディスクサイズを誤って多く設定してしまった場合、Review 画面で Save するまでは元の状態に戻すことができます。各画面で[Cancel]をクリックし、変更内容を全てリセットしてください。

- ② Windows OS の仮想マシンの場合、ハードディスクサイズの追加直後はディスクの管理画面に追加情報が表示されていない場合があります。この場合は OS 側で[最新の情報に更新]してください。



図 6.4.1.3 ハードディスクサイズを変更する

Windows OS の仮想マシンで 1 つのディスクを複数のドライブに分割している場合、最後にあるドライブ以外はハードディスクサイズを変更できません。

複数ドライブを使用する場合は仮想マシンの作成時点で複数ディスクを使用する等をご検討ください。



図 6.4.1.4 ハードディスクサイズを変更する

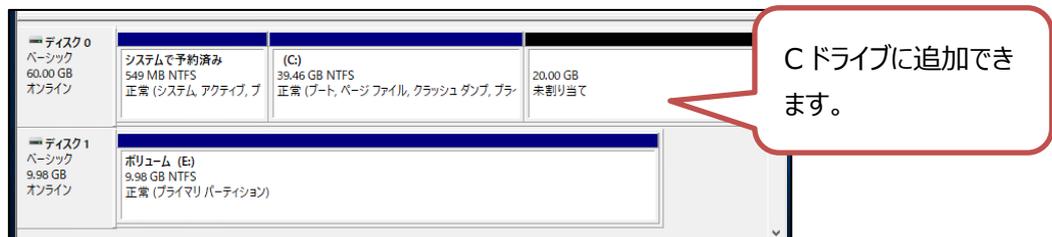
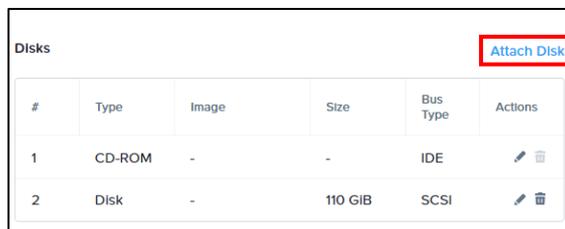


図 6.4.1.5 ハードディスクサイズを変更する

6.4.2. ハードディスクを追加する

- ① 仮想マシンのハードディスクを追加する場合、Disksにある[Attach Disk]をクリックします。



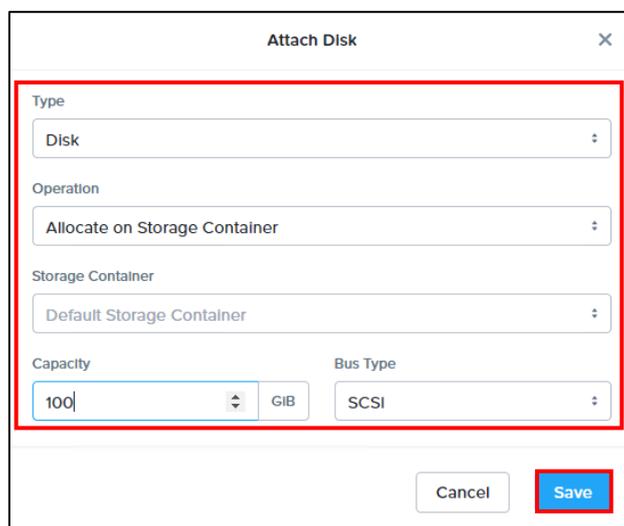
#	Type	Image	Size	Bus Type	Actions
1	CD-ROM	-	-	IDE	 
2	Disk	-	110 GiB	SCSI	 

図 6.4.2.1 ハードディスクを追加する

- ② “New empty hard disk”を選択し、[Save]をクリックします。

フィールドに以下の項目を設定します。

項目名	入力内容
Type	“Disk”を選択します。
Operation	“Allocate on Storage Container”を選択します。
Storage Container	変更できません。
Image	<u>ハードディスクサイズ</u> を入力します。
Bus Type	“SCSI”を選択します。



Attach Disk

Type: Disk

Operation: Allocate on Storage Container

Storage Container: Default Storage Container

Capacity: 100 GIB

Bus Type: SCSI

Cancel Save

図 6.4.2.2 ハードディスクを追加する

- ③ 新しいハードディスクが作成されていることを確認します。

Disks					Attach Disk
#	Type	Image	Size	Bus Type	Actions
1	CD-ROM	-	-	IDE	 
2	Disk	-	110 GiB	SCSI	 
3	Disk	-	100 GiB	SCSI	 

図 6.4.2.3 ハードディスクを追加する

6.4.3. ハードディスクを削除する

仮想マシンのハードディスクを削除する場合、削除したいハードディスクの右にある[]ボタンをクリックします。

- OS がインストールされているハードディスクを削除すると仮想マシンが動作しなくなります。

Disks					Attach Disk
#	Type	Image	Size	Bus Type	Actions
1	CD-ROM	-	-	IDE	 
2	Disk	-	110 GiB	SCSI	 
3	Disk	-	100 GiB	SCSI	 

図 6.4.3.1 ハードディスクを削除する

6.5. ネットワークの設定を変更する



図 6.4.3.2 ハードディスクを削除する

項目名	入力内容
Networks	<ul style="list-style-type: none"> ・使用するネットワークの変更や、ネットワークの接続状態を変更する場合は、[]をクリックします。 ・使用するネットワークを追加する場合は、[Attach To Subnet]をクリックします。 ・ネットワークを削除する場合は、[]をクリックします。

6.5.1. ネットワークを変更する

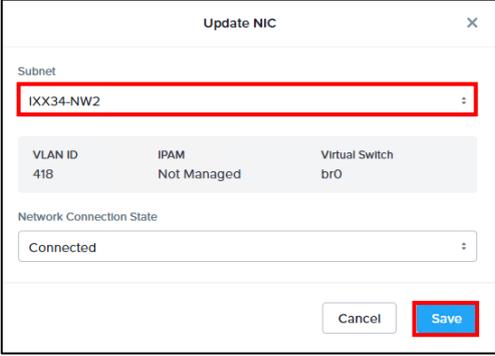
- ① 仮想マシンのネットワークを変更する場合、“Networks”で変更したいネットワークの“”部分をクリックします。



Subnet	VLAN ID / VPC	Private IP	Public IP	Actions
IXX34-NW1	417	Auto-Assign	None	 

図 6.5.1.1 ネットワークを変更する

- ② 使用するネットワークを選択し、[Save]をクリックします。



Update NIC

Subnet

IXX34-NW2

VLAN ID: 418, IPAM: Not Managed, Virtual Switch: br0

Network Connection State: Connected

Cancel Save

図 6.5.1.2 ネットワークを変更する

- 『さくら UTOPIA クラウド IaaS サービス プロジェクト別 リソース設定情報』に記載されている“利用可能ネットワーク”を選択します。
- ネットワーク情報の詳細につきましては『さくら UTOPIA クラウド IaaS サービス ネットワーク情報』をご確認ください。

6.5.2. ネットワークを追加する

- ① 仮想マシンのネットワークを追加する場合、Network にある[Connect To Subnet]をクリックします。

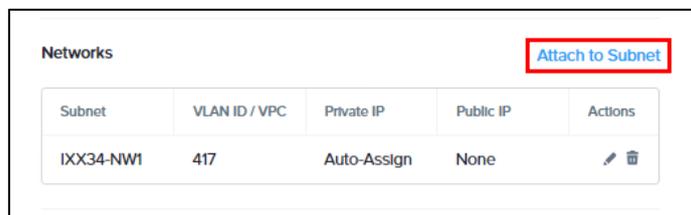


図 6.5.2.1 ネットワークを追加する

“Subnet”と“ Network Connection State”を設定し、[Save]をクリックします。

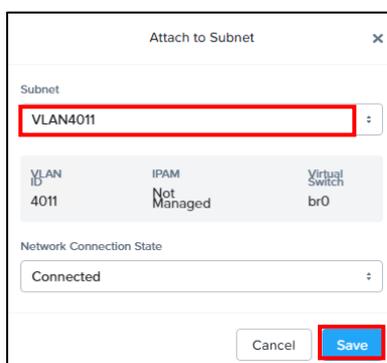


図 6.5.2.2 ネットワークを追加する

- ② 追加したネットワークに設定を変更する場合、本紙「6.5.1. ネットワークを変更する」と同様にネットワークの設定を変更します。

6.5.3. ネットワークを削除する

仮想マシンのネットワークを削除する場合、削除したいNICの右にある[]ボタンをクリックします。

Networks				Attach to Subnet
Subnet	VLAN ID / VPC	Private IP	Public IP	Actions
IXX34-NW1	417	Auto-Assign	None	 

図 6.5.3.1 ネットワークを削除する

6.6. Boot の構成を変更する

Boot Configuration では、起動デバイスの優先順位を選択できます。

- 仮想マシンがパワーオンの状態では変更できません。
- 仮想マシン作成後の BIOS Mode(Legacy/UEFI)の変更はできません。

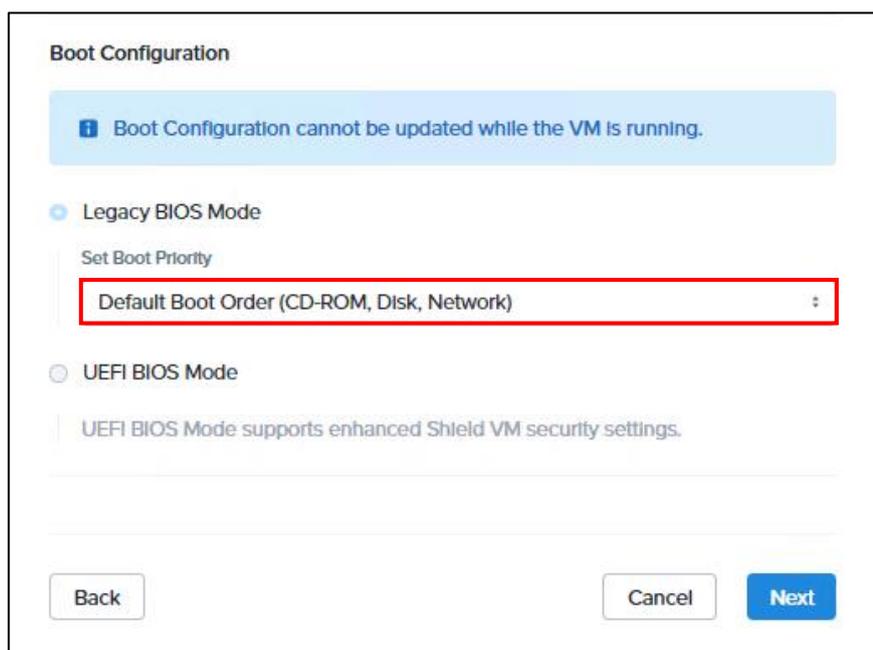


図 6.6.1 Boot の構成を変更する

項目名	入力内容
Boot Configuration	Legacy BIOS ・Default Boot Order (CD-ROM、Disk、Network) ・CDROM (SATA) UEFI BIOS Mode

6.7. タイムゾーンを変更する

※Categories は入力不要です。

The screenshot shows the 'Update VM' wizard in the 'Management' step. The 'Categories' field is empty. The 'Timezone' dropdown is highlighted with a red box and shows '(UTC + 09:00) Asia/Tokyo'. Below the dropdown, there is a checkbox for 'Use this VM as an Agent VM' which is unchecked. At the bottom, there are three buttons: 'Back', 'Cancel', and 'Next'.

図 6.7.1 タイムゾーンを変更する

項目名	入力内容
Categories	入力不要です。
Timezone	ハードウェアクロックのタイムゾーンになります。 “(UTC+09:00)Asia/Tokyo”を選択します。 Linux 系の OS で再起動時に時間がずれる場合は、“(UTC) UTC”を選択します。

- ③ Review が表示されます。[Save]をクリックすると設定が変更されます。

Update VM

1 Configuration 2 Resources 3 Management 4 Review

Configuration Edit ^

VM Name Win2019
Description -
Cluster NTNXCL
Instance Properties 2 vCPU, 1 Core, 4 GB
Memory Overcommit Disabled

Resources Edit ^

Disks

#	Type	Image	Size	Bus Type
1	CD-ROM	-	-	IDE
2	Disk	-	100 GiB	SCSI

Networks

Subnet	VLAN ID / VPC	Private IP	Public IP
IXX34-NW1	417	Auto-Assign	None

Security

Boot Configuration Legacy BIOS Mode: Default Boot Order

Management Edit ^

Categories
Timezone Asia/Tokyo

図 6.7.2 タイムゾーンを変更する

7. 仮想マシンを削除する

作成した仮想マシンを削除する手順について説明します。

7.1. 作成した仮想マシンを削除する

- ① 「4.1. 仮想マシン一覧 (VMs) にアクセスする」より、削除したい仮想マシンを右クリックし、[Delete]をクリックします。

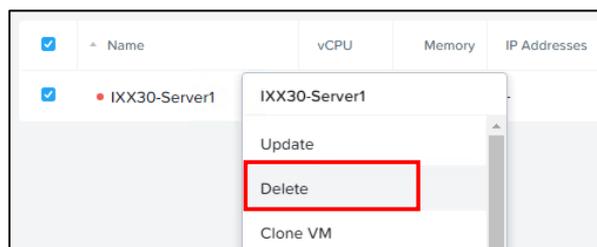


図 7.1.1 作成した仮想マシンを削除する

- ② 以下の確認画面が表示されます。[Delete]をクリックすると仮想マシンが削除されます。
- 仮想マシンが起動中でも削除されます。ご注意ください。

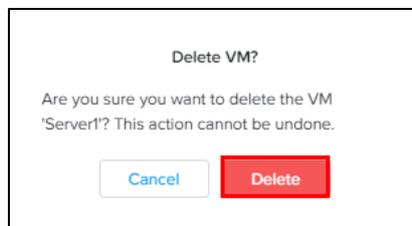


図 7.1.2 作成した仮想マシンを削除する

8. カタログを使用する

本サービスではいくつかのメディアが公開されています。公開されているメディアを使用する場合は、以下の手順で仮想マシンにメディアを挿入することができます。

8.1. メディアを仮想マシンに挿入する

- ① 「4.1. 仮想マシン一覧 (VMs) にアクセスする」で VMs にアクセスし、メディアを挿入する仮想マシンを右クリックし、[Update]をクリックします。

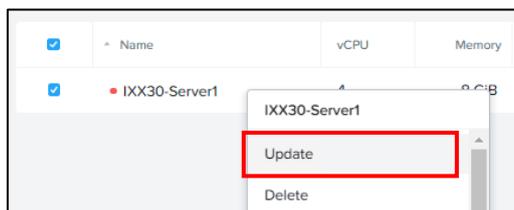


図 8.1.1 メディアを仮想マシンに挿入する

- ② Configuration 画面では変更する項目はありません。[Next]をクリックします。
- ③ Resources 画面の“Disks”にある CDROM の “”部分ををクリックします。



図 8.1.2 メディアを仮想マシンに挿入する

- ④ “Operatopn”で Clone from Image を選択し、“Image”で使用するメディアを選択して [Save]をクリックします。

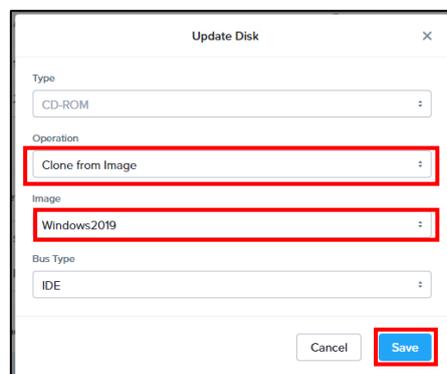


図 8.1.3 メディアを仮想マシンに挿入する

- ⑤ 完了したら[Next]をクリックします。
- ⑥ Management 画面では変更する項目はありません。[Next]をクリックします。
- ⑦ Review 画面で[Save]をクリックします。
- ⑧ 仮想マシン内でメディアが表示されていることを確認します。

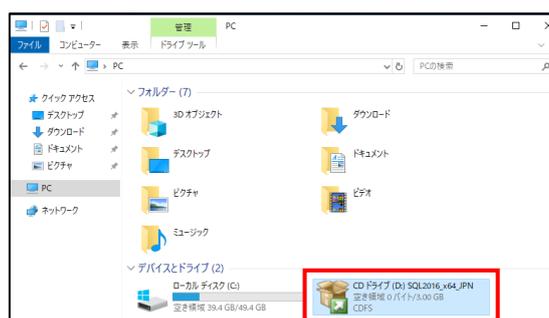


図 8.1.4 メディアを仮想マシンに挿入する

- ⑨ メディアを取り出す際には各 OS 内でメディアを取り出します。

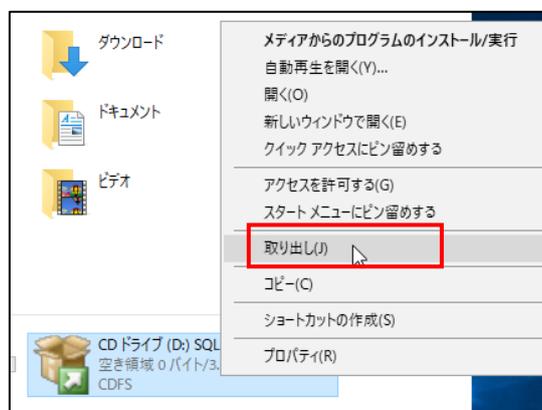


図 8.1.5 メディアを仮想マシンに挿入する

9. [重要]Windows OS のライセンス認証を行う

本サービスで Windows OS の仮想マシンを作成・起動した時点では OS のライセンス認証が完了していません。必ずお客様自身でライセンス認証を完了頂く必要があります。

9.1. 仮想マシンから Windows ライセンスサーバにアクセスできる場合

仮想マシンが Windows ライセンスサーバにアクセスできる場合、サーバマネージャの プロダクト ID 部分に“ライセンス認証済み”と表示されます。

この場合、お客様によるライセンス認証作業は不要です。

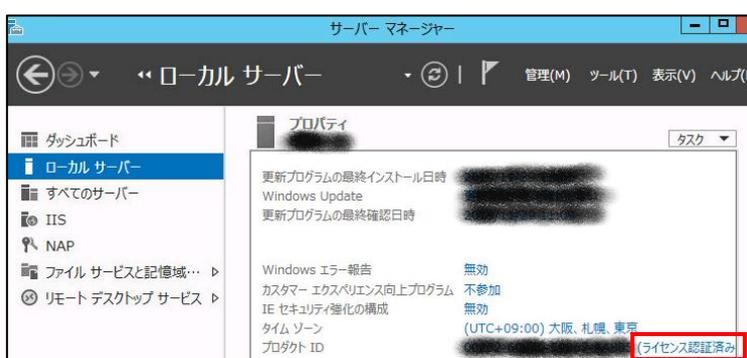


図 9.1.1 仮想マシンから Windows ライセンスサーバにアクセスできる場合

9.2. 仮想マシンから Windows ライセンスサーバにアクセスできない場合

仮想マシンが Windows ライセンスサーバにアクセスできない場合、サーバマネージャの プロダクト ID 部分に“ライセンス認証されていません”と表示されます。

この場合、お客様によるライセンス認証作業が必要です。

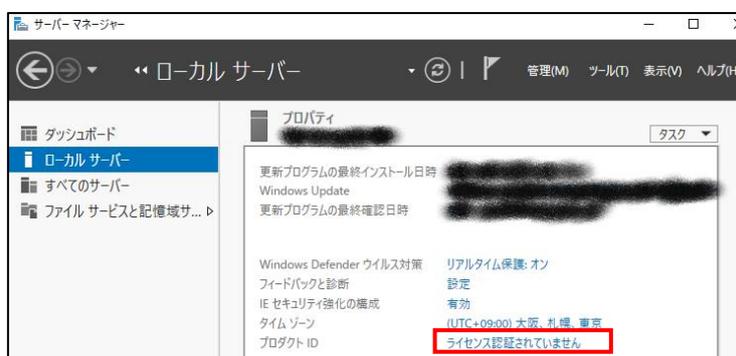


図 9.2.1 仮想マシンから Windows ライセンスサーバにアクセスできない場合

9.3. ライセンス認証を行う

仮想マシンがインターネットに接続されていない場合、電話でライセンス認証を行います。なお、この作業は5～10分程かかります。

- ① ライセンス認証されていない仮想マシンにログインし、コマンドプロンプトを開き、“slui 4”と入力し、実行します。

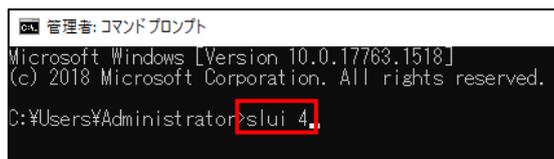


図 9.3.1 ライセンス認証を行う

- ② “国または地域を選択してください”の下の国名をクリックし、「日本（下から5番目にあります。）」を選択し、“次へ”をクリックします。

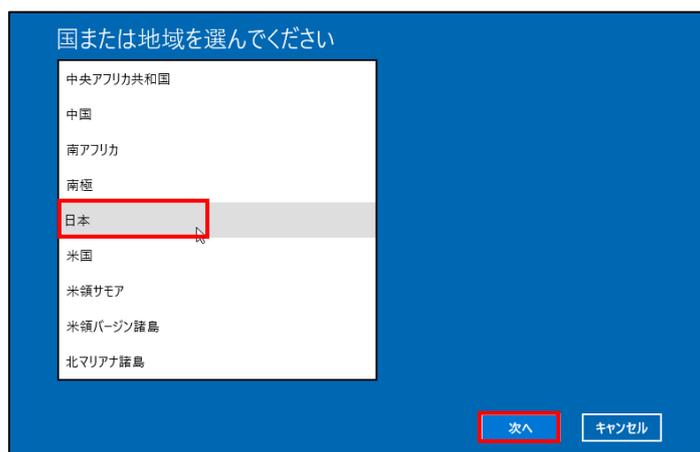


図 9.3.2 ライセンス認証を行う

- ③ 画面に表示されている“無料電話番号”に架電し、ガイダンスに従いインストール ID をダイヤル入力します。
入力が終わりましたら“確認 ID を入力”をクリックします。

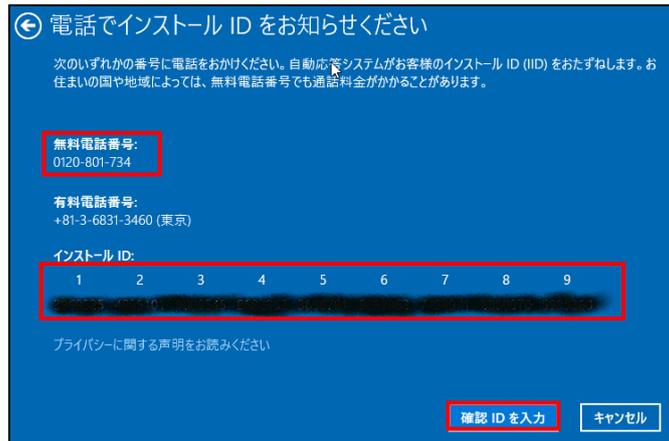


図 9.3.3 ライセンス認証を行う

- ④ ガイダンスより流れる確認 ID を入力し、“Windows のライセンス認証”をクリックします。

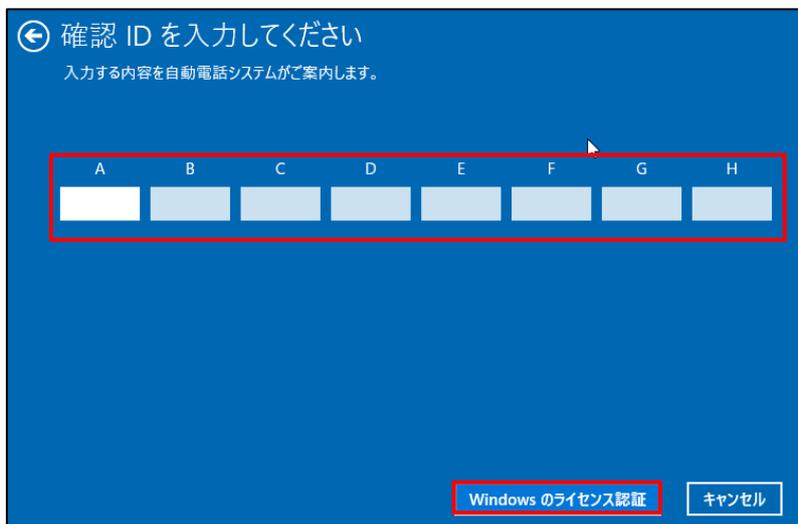


図 9.3.4 ライセンス認証を行う

- ⑤ “閉じる”をクリックします。

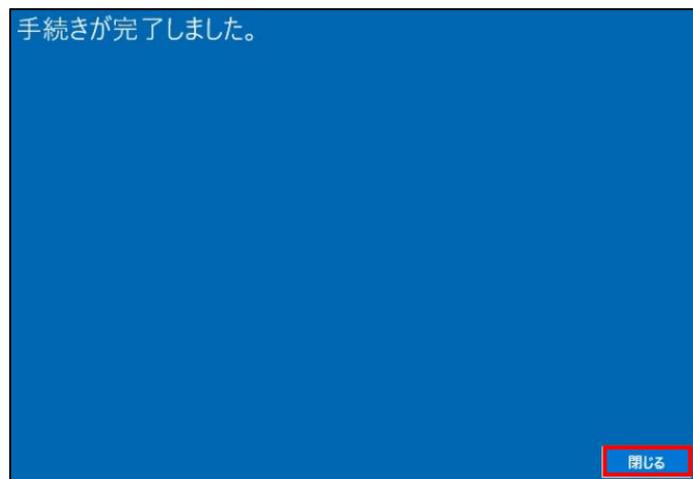


図 9.3.5 ライセンス認証を行う

- ⑥ サーバマネージャのプロダクト ID 部分に“ライセンス認証済み”と表示されていることを確認します。

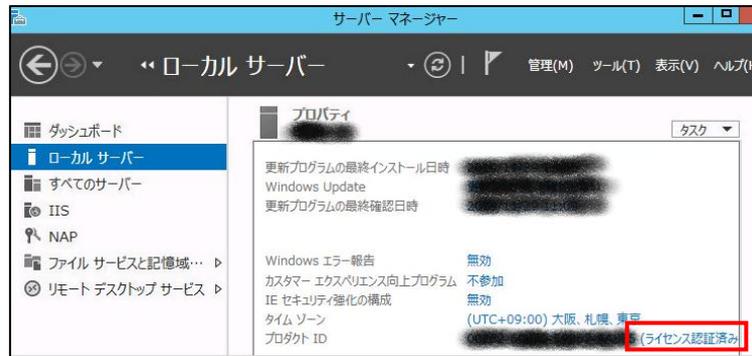


図 9.3.6 ライセンス認証を行う

付録 1. ライセンスについて

本サービスで作成した仮想マシンの OS・ソフトウェアのライセンスについて説明します。

付録 1.1 Microsoft 社製品（OS・ソフト）をご利用の場合

当社が提供するライセンス（Microsoft Services Provider License Agreement（SPLA））が必須となります。

SPLA をご利用の場合、ライセンスにつきましては当社からの貸し出しとなります。

この場合、ライセンスの利用については Microsoft 社の『エンドユーザーライセンス条項』が適用されます。但し、Microsoft Software Assurance for Volume Licensing（SA）をご利用の場合、当社が提供する SPLA は不要です。お客様がお持ちの SA をご利用ください。

上記以外のお客様がお持ちのライセンスやお客様が個別に購入したライセンスが利用できませんのでご注意ください。

なお、本サービスで提供する仮想マシンテンプレートにはすでに SPLA が登録されています。SA をご利用の場合はライセンスの変更をお願い致します。

付録 1.2 RedHat 社製品（OS）をご利用の場合

RedHat 社の以下の契約に同意頂く必要があります。

RED HAT END USER LISENCE AGREEMENT (EULA 契約) Red Hat 社が提供するソフトウェアライセンスの使用に関する契約 http://jp.redhat.com/licenses/RHEL_EULA_JAPAN.pdf
RED HAT ENTERPRISE AGREEMENT (EA 契約) ソフトウェアライセンス以外の Red Hat 社のサポートサービスに関する http://www.jp.redhat.com/licenses/Enterprise_Agr_Japan.pdf
Cloud Software Subscription Agreement(CSSA 契約) クラウド上で利用する Red Hat 社のソフトウェア サブスクリプションに関する契約 http://www.redhat.com/licenses/cloud_cssa/Cloud_Software_Subscription_Agreement_Japan.pdf

また、当社がライセンスを提供する場合は〔月額提供サービス〕をご利用頂く必要があります。

付録 1.3 上記以外の製品（OS・ソフト）をご利用の場合

販売元にご確認ください。

さくら UTOPIA クラウド IaaS サービス 仮想マシン操作画面（PRISM） 利用マニュアル

2021年2月8日 第1版
2023年12月29日 第2版

株式会社さくらケーシーエス
データセンター

Copyright© 2017 - 2022 SAKURA KCS Corp. All Rights Reserved.

本書に記載されている情報、事項、データは、予告なく変更されることがあります。

本書を弊社に無断でその一部、あるいはその全部を複写、複製（コピー）、追加、削除、加工および転載することを禁じます。